

規制影響評価検討会における検討方針

逸脱行為事案検討会の調査により、逸脱行為がなされた可能性のある試験の範囲は、下記のとおりとされた。

2015年以降に試験開始された、直接投与試験
(対象試験リストは、別添資料4のとおり(13物質))

◆試験の評価方法案

ポイント

- 動物が衰弱していた場合に、被験物質を投与しなかったことがあるとの証言
- 動物の状態異常が見られる場合には、「要注意動物観察記録」に観察記録を残すルール
- ラット肝中期発がん性試験については、「要注意動物観察記録」に記録があり、試験期間中に死亡又は切迫屠殺(以下「死亡等」という。)した動物については、最終的な評価対象からは既に除外されていた。→発がん性の判断基準は、GST-P 陽性細胞巢の単位面積当たりの数及び面積(の平均値)であり、動物の生育・投与期間を揃えるため
- 遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験については、「要注意動物観察記録」に記録がある動物は、試験期間中に死亡等したものも含め、全ての動物を最終的な評価対象としている。→発がん性の判断基準は、腫瘍発生状況であるため

(ラット肝中期発がん性試験)

「要注意動物観察記録」に記録があり、かつ、試験期間中に死亡等せず、最終的な評価対象となっていた動物について、「投与が中止されていたにもかかわらず、投与されていたように記録されていた」可能性を最大限に考慮し、全て評価対象から除外した上で、試験としての成立の可否及びこれまでの評価の妥当性を検討する。

(遺伝子改変動物を用いた発がん性試験)

「要注意動物観察記録」に記録がある動物について、「投与が中止されていたにもかかわらず、投与されていたように記録されていた」可能性を最大限に考慮し、投与回数が少ないことにより腫瘍が発生しないといった影響を控除するため、「要注意動物観察記録」に記録があり、かつ、腫瘍が発生していない動物について評価対象から除外した上で、試験としての成立の可否及びこれまで

の評価の妥当性を検討する。

◆本検討会での検討対象試験

上記の評価方法案に基づき除外対象動物が存在する試験は、ラット肝中期発がん性試験で4物質（4試験）、遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験で3物質（8試験）となる。

(注)2-クロロベンゾイルクロリドの遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験については、病理組織診断中により腫瘍発生状況が明らかになっていないが、今後対象となる可能性があることを考慮し含めている。

◆評価方法案に基づく具体的な検討事項

1 試験結果について、既に発がん性 WG で評価済みの試験に係る検討

(1) ラット肝中期発がん性試験 3物質

対象となる10試験の中で、要注意動物観察記録に記録のある動物が試験期間中に死亡等せず、当該動物も有効動物数に含めて試験結果がとりまとめられている以下の試験

- 試験番号 871 1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼン
- 試験番号 880 m-クロロフェノール
- 試験番号 927 5-クロロ-2-ニトロアニリン

について、当該動物を試験結果から除外した上で、試験としての成立の可否及びこれまでの評価の妥当性について検討する。

(2) 遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験 1物質

要注意動物観察記録に記録があり、かつ、腫瘍が発生していない動物がある以下の試験

- 試験番号 900,906,907 4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール

について、当該動物を試験結果から除外した場合の試験としての成立の可否及びこれまでの評価の妥当性について検討する。

2 試験結果について、発がん性 WG での評価が未実施の試験に係る検討

(1) ラット肝中期発がん性試験 1物質

- 試験番号 940 3,5,5-トリメチルヘキサノ酸

(2) 遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験 2物質

- 試験番号 912,913,924 1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒド-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン

○試験番号 933,934 2-クロロベンゾイルクロリド

については、1と同様の考え方で除外対象となる動物を試験結果から除外した場合の試験としての成立の可否、及び今後の評価に当たっては当該動物を除外した上で評価することの妥当性について検討する。

「ラット肝中期発がん性試験」及び「遺伝子改変動物を用いた発がん性試験」 に関する調査基準及び評価基準

今回、検討対象となった試験は、「ラット肝中期発がん性試験」及び「遺伝子改変動物を用いた発がん性試験」の2種類。この2種の試験に関しては「国によるリスク評価」対象物質候補のスクリーニングの一部として実施してきたもの。それぞれの試験の調査基準及び評価基準の抜粋は以下のとおり。

1. ラット肝中期発がん性試験

◆「ラット肝中期発がん性試験による調査の基準（平成25年度第2回発がん性評価WG後再修正）」より抜粋

2 試験に用いる動物

(2) 1群当たりの動物数は、有効匹数15匹以上とする。

3 投与群及び対照群

(1) 試験における起始物質・被験物質投与群の用量は、3段階以上とする。

◆「中期発がん性試験（ラット肝中期発がん性試験）の結果の評価基準（平成26年度第1回発がん性評価WG確認版）」より抜粋

1 陽性の判断基準

投与群における肝臓の胎盤型 Glutathione S-transferase(GST-P)陽性細胞巢の単位面積あたりの個数又は面積が、媒体対照群と比較して有意に増加し、かつ、用量反応性が認められる場合、又は単一の用量群において明らかな増加が認められる場合、陽性と判断する。

<参考2>

(1) 陽性と判断された物質の場合

発がん性評価ワーキンググループにおいて、ラット肝中期発がん性試験の結果が陽性と判断された物質は、原則として、吸入による長期発がん性試験の可否を確認するためのフィージビリティ試験（試験用ガス、蒸気等の発生試験）を行う。

その結果、試験可能と判断された場合には、吸入による長期発がん性試験の候補物質とし、「有害性評価小検討会」において、候補物質の中から試験対象物質を選定する。

試験対象物質が選定された場合には、発がん性評価ワーキンググループ

において、長期発がん性試験の使用動物種等を決定する。

(2) 陰性と判断された物質の場合

発がん性評価ワーキンググループにおいて、ラット肝中期発がん性試験の結果が「陰性」と判断された物質は、原則として、肝臓以外の臓器を標的とした中期発がん性試験（以下「非肝臓中期発がん性試験」という。）の候補物質とする。

ただし、当分の間は、ラット肝中期発がん性試験を優先して行うこととし、将来、非肝臓中期発がん性試験を行う段階となった場合にはその時点までに実施したラット肝中期発がん性試験で陰性だった物質の中から、発がん性評価ワーキンググループにおいて、追加の試験が必要な物質を選定するとともに、標的臓器及び試験方法を決定する。

2. 遺伝子改変動物を用いたがん原性試験

◆「遺伝子改変動物を用いたがん原性試験による調査の基準（平成 28 年度第 3 回発がん性評価 WG 確認版）」より抜粋

2 試験に用いる動物

(2) がん原性試験に用いる動物数は、1 群につき、雄及び雌それぞれ 25 匹以上としなければならない。

3 投与群及び対照群

(1) がん原性試験における投与群の数は、雄及び雌それぞれについて、3 段階以上としなければならない。

◆「遺伝子改変動物を用いた発がん性試験の結果の評価基準（素案）（令和 2 年度第 1 回発がん性評価 WG 提出資料）」より抜粋

1 発がん性の判断基準

試験に用いた動物の種類（rasH2 マウス、p53KO マウス）及び雌雄毎の評価基準は、原則以下のとおりとする。

①発がん性を示す明らかな証拠あり（clear evidence of carcinogenic activity）：

- 1) 悪性腫瘍の増加
- 2) 悪性腫瘍と良性腫瘍を合わせた発生の増加、あるいは、
- 3) 悪性腫瘍への進行することが既に知られている良性腫瘍の明らかな増加と解釈される場合。

②発がん性を示す証拠あり（some evidence of carcinogenic activity）：

悪性腫瘍、良性腫瘍、または悪性腫瘍と良性腫瘍を合わせた発生前に投与による

発生増加がみられるが、「明らかな証拠」とするには弱い、あるいは、極めて稀な腫瘍（良性または悪性）の少数例の発生があり、投与による発生と考えられる場合。

- ③発がん性を示す不確実な証拠（equivocal evidence of carcinogenic activity）：腫瘍（良性または悪性）の発生に投与による増加が疑われるが、その増加極めて僅か（境界）と解釈される場合。
- ④発がん性を示す証拠なし（no evidence of carcinogenic activity）：投与に関連する腫瘍の増加はないと解釈される場合。

4 遺伝子改変動物を用いた発がん性試験以降のさらなる試験の実施

(1) 陽性と判断された物質の場合

発がん性評価ワーキンググループにおいて、遺伝子改変動物（マウス）を用いた発がん性試験の結果が「陽性」と判断された物質について、技術等の面から吸入試験の実施が可能であり、ラットを用いる長期がん原性試験が実施されていない場合は、試験実施の可否を検討する。

その結果、試験実施が可能と判断された場合には、ラットを用いる吸入による長期がん原性試験の候補物質とし、「有害性評価小検討会」において検討する。

試験対象物質が選定された場合には、発がん性評価ワーキンググループにおいて、長期発がん性試験の使用動物種等を決定する。

(2) 陰性と判断された物質の場合

新たな試験は実施しない。

日本バイオアッセイ研究センターにおける試験手順書からの逸脱行為がなされた可能性のある試験リスト
(2015年以降に試験が開始された厚生労働省が依頼した強制経口投与本試験)

物質 No.	試験番号	化学物質	試験方法	実験動物	試験開始日	試験終了日	試験結果 <報告書の結論>	発がん性WG での試験結 果の評価	試験結果が 評価された 発がん性WG	備考
1	870	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール	ラット肝中期発がん性試験 遺伝子改変動物を用いた 中期発がん性試験	ラット(♂)	2015.09.30	2016.03.15	陰性	陰性	H28年度 第1回	
	900			rasH2マウス(♂)	2017.09.08	2019.03.29	some evidence	陽性	R2年度 第1回	
	901			rasH2マウス(♀)	2017.09.08	2019.03.29	no evidence			
	906			p53K0マウス(♂)	2018.03.06	2019.10.31	no evidence			
	907			p53K0マウス(♀)	2018.03.06	2019.10.31	no evidence			
2	871	1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼン	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2015.09.30	2016.03.15	陽性	陽性	H28年度 第1回	
3	879	p-トルエンスルホン酸メチル	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2016.09.12	2017.02.15	陰性	陰性	H28年度 第3回	
4	880	m-クロロフェノール	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2016.09.12	2017.02.15	陰性	陰性	H28年度 第3回	
5	898	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ- 1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン	ラット肝中期発がん性試験 遺伝子改変動物を用いた 中期発がん性試験	ラット(♂)	2017.09.08	2018.02.15	陰性	陰性	H29年度 第1回	
	912			rasH2マウス(♂)	2018.09.07	2020.03.31	clear evidence	-	(未実施)	試験報告書提出済み
	913			rasH2マウス(♀)	2018.09.07	2020.03.31	clear evidence			試験報告書提出済み
	923			p53K0マウス(♂)	2019.03.05	2020.11.30	clear evidence			試験報告書提出済み
	924			p53K0マウス(♀)	2019.03.05	2020.11.30	clear evidence			試験報告書提出済み
6	899	カルシウム=ジホルマート	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2017.09.08	2018.02.15	陰性	陰性	H29年度 第1回	
7	910	4-アミノフェノール	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2018.09.10	2019.02.01	陰性	陰性	H30年度 第2回	
8	911	o-ニトロアニリン	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2018.09.10	2019.02.01	陰性	陰性	H30年度 第2回	
9	927	5-クロロ-2-ニトロアニリン	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2019.10.01	2020.02.14	陰性	陰性	R元年度 第3回	
10	928	酢酸亜鉛 (II)	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2019.10.01	2020.02.14	陰性	陰性	R元年度 第3回	
11	940	3,5,5-トリメチルヘキサノ酸	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2020.09.10	2021.02.01	-	-	(未実施)	試験報告書未提出
12	941	炭酸ジフェニル	ラット肝中期発がん性試験	ラット(♂)	2020.09.10	2021.02.01	-	-	(未実施)	試験報告書未提出
13	933	2-クロロベンゾイルクロリド	遺伝子改変動物を用いた 中期発がん性試験	rasH2マウス(♂)	2020.03.05	2021.10.29	-	-	(未実施)	試験報告書未提出
	934			rasH2マウス(♀)	2020.03.05	2021.10.29				試験報告書未提出
	942			p53K0マウス(♂)	2020.10.26	2022.06.30				試験報告書未提出
	943			p53K0マウス(♀)	2020.10.26	2022.06.30				試験報告書未提出

日本バイオアッセイ研究センターにおける試験手順書からの逸脱行為がなされた可能性のある試験リスト（続き）

（2015年以降に試験が開始された厚生労働省が依頼した強制経口投与本試験）

物質 No.	試験番号	化学物質	試験方法	試験動物総数	要注意動物観察記録に 記録されていた動物数				投与期間中に死亡等した動物数				評価方法案に基づく除外対象動物			
					溶媒 対照群	低用量 投与群	中用量 投与群	高用量 投与群	溶媒 対照群	低用量 投与群	中用量 投与群	高用量 投与群	溶媒 対照群	低用量 投与群	中用量 投与群	高用量 投与群
1	870	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール	ラット肝中期発がん性試験	88				1				1				
	900		遺伝子改変動物を用いた 中期発がん性試験	100	1							1				
	901			100		1		1		1						
	906			100		1	1	5		1	1	5		1	5	
	907			100				7				7			6	
2	871	1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼン	ラット肝中期発がん性試験	88				2				1			1	
3	879	p-トルエンスルホン酸メチル	ラット肝中期発がん性試験	88				1				1				
4	880	m-クロロフェノール	ラット肝中期発がん性試験	88			1	2			1				2	
5	898	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ- 1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン	ラット肝中期発がん性試験	88												
	912		遺伝子改変動物を用いた 中期発がん性試験	100	1			1				1	1			
	913			100		1		2		1		2	1			
	923			100			4	17			4	17				
	924			100		1	5	16		1	4	16		1	1	
6	899	カルシウム=ジホルマート	ラット肝中期発がん性試験	88												
7	910	4-アミノフェノール	ラット肝中期発がん性試験	88												
8	911	o-ニトロアニリン	ラット肝中期発がん性試験	88												
9	927	5-クロロ-2-ニトロアニリン	ラット肝中期発がん性試験	88	1			1	1						1	
10	928	酢酸亜鉛(II)	ラット肝中期発がん性試験	88												
11	940	3,5,5-トリメチルヘキサン酸	ラット肝中期発がん性試験	88				5				2			3	
12	941	炭酸ジフェニル	ラット肝中期発がん性試験	88			1				1					
13	933	2-クロロベンゾイルクロリド	遺伝子改変動物を用いた 中期発がん性試験	100				5				3	病理組織診断中のため不明			
	934			100	1	2	1	3	1	2	1	2				
	942			100												
	943			100												

※評価方法案に基づく除外対象動物とは、ラット肝中期発がん性試験においては、「要注意動物観察記録に記録されており、かつ、投与期間中に死亡等していない動物」。遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験においては、「要注意動物観察記録に記録されており、かつ、腫瘍が発生していない動物」。(2-クロロベンゾイルクロリドについては病理組織診断中で腫瘍発生状況が明らかになっていないため段階で不明)

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール		
物質No.	1	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	870	試験開始	2015.9.30
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2016.3.15
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中	0 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
低用量 投与群	22 匹中	12.5 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
中用量 投与群	22 匹中	50 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
高用量 投与群	22 匹中	200 mg/kg	<1308> 2015.11.26 ～ 2015.11.27	2 日	4.8%
	1 匹		～	日	

合計	88 匹中 1 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール		
物質No.	1	試験対象動物	rasH2マウス
試験番号(バイオ)	900	試験開始	2017.9.8
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2019.3.29
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中 1 匹	0 mg/kg	1019	2018.3.13 ~ 2018.3.20	8 日	4.4%
低用量 投与群	25 匹中 0 匹	50 mg/kg		~	日	
中用量 投与群	25 匹中 0 匹	100 mg/kg		~	日	
高用量 投与群	25 匹中 0 匹	200 mg/kg		~	日	

合計	100 匹中 1 匹
----	---------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール		
物質No.	1	試験対象動物	rasH2マウス
試験番号(バイオ)	901	試験開始	2017.9.8
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2019.3.29
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
低用量 投与群	25 匹中	50 mg/kg	<2105>	2018.2.20 ～ 2018.2.22	3 日	1.6%
	1 匹			～	日	
中用量 投与群	25 匹中	100 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
高用量 投与群	25 匹中	200 mg/kg	<2307>	2018.3.19 ～ 2018.3.20	2 日	1.1%
	1 匹			～	日	

合計	100 匹中 2 匹
----	---------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール		
物質No.	1	試験対象動物	p53KOマウス
試験番号(バイオ)	906	試験開始	2017.9.8
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2019.3.29
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
低用量 投与群	25 匹中	50 mg/kg	<1124>	2018.8.10 ～ 2018.8.13	4 日	2.2%
	1 匹			～	日	
中用量 投与群	25 匹中	100 mg/kg	<1204>	2018.8.24 ～ 2018.9.11	19 日	10.4%
	1 匹			～	日	
高用量 投与群	25 匹中	200 mg/kg	<1301>	2018.8.14 ～ 2018.9.11	29 日	15.9%
			<1310>	2918.5.8 ～ 2018.5.10	27 日	14.8%
				2018.5.22 ～ 2018.5.30		
				2018.6.12 ～ 2018.6.22		
			<1313>	2018.7.17 ～ 2018.7.20	13 日	7.1%
				2018.5.1 ～ 2018.5.10		
			<1316>	2018.9.30 ～ 2018.10.2	21 日	11.5%
2018.5.22 ～ 2018.6.7						
<1325>	2018.8.11 ～ 2018.8.14	7 日	3.8%			
	2018.6.26 ～ 2018.7.2					
合計	100 匹中 7 匹					

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール		
物質No.	1	試験対象動物	p53KOマウス
試験番号(バイオ)	907	試験開始	2017.9.8
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2019.3.29
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
低用量 投与群	25 匹中	50 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
中用量 投与群	25 匹中	100 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
高用量 投与群	25 匹中	200 mg/kg	<2301>	2018.8.13 ～ 2018.8.14	2 日	1.1%
			<2303>	2018.5.8 ～ 2018.5.1	14 日	7.7%
			<2304>	2018.5.7 ～ 2018.6.5	30 日	16.5%
			<2307>	2018.5.8 ～ 2018.6.5	36 日	19.8%
				2018.6.13 ～ 2018.6.17		
			<2310>	2018.5.8 ～ 2018.5.18	29 日	15.9%
				2018.6.14 ～ 2018.6.19		
				2018.8.9 ～ 2018.8.20		
			<2311>	2018.7.11 ～ 2018.7.12	2	1.1%
			<2313>	2018.6.13 ～ 2018.6.17	14 日	7.7%
2018.6.24 ～ 2018.7.2						
	7 匹					

合計	100 匹中 7 匹
----	---------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	1-フェニルアミノ-4-イソプロピルアミノベンゼン		
物質No.	2	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	871	試験開始	2015.9.30
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2016.3.15
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中	0 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
低用量 投与群	22 匹中	4 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
中用量 投与群	22 匹中	15 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
高用量 投与群	22 匹中	1303	2015.11.29 ～ 2015.12.5	7 日	16.7%
	2 匹	<1308>	2015.12.8 ～	1 日	2.4%

合計	88 匹中 2 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	パラ-トルエンスルホン酸メチル		
物質No.	3	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	879	試験開始	2016.9.12
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2017.2.15
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中 0 匹	0 mg/kg	～	日	
			～	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	40 mg/kg	～	日	
			～	日	
中用量 投与群	22 匹中 0 匹	80 mg/kg	～	日	
			～	日	
高用量 投与群	22 匹中 1 匹	160 mg/kg	<1319> 2016.11.12 ～ 2016.11.13	1 日	2.4%
			～	日	

合計	88 匹中 1 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	m-クロロフェノール		
物質No.	4	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	880	試験開始	2016.9.12
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2017.2.15
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中 0 匹	0 mg/kg	～	日	
			～	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	180 mg/kg	～	日	
			～	日	
中用量 投与群	22 匹中 1 匹	360 mg/kg	<1214> 2016.10.30 ～	1 日	2.4%
			～	日	
高用量 投与群	22 匹中 2 匹	720 mg/kg	1305 2016.11.17 ～ 2016.11.21	5 日	11.9%
			1311 2016.11.21 ～ 2016.11.26	6 日	14.3%

合計	88 匹中 3 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン		
物質No.	5	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	898	試験開始	2017.9.8
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2018.2.15
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中 0 匹	0 mg/kg	～	日	
			～	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	12.5 mg/kg	～	日	
			～	日	
中用量 投与群	22 匹中 0 匹	10 mg/kg	～	日	
			～	日	
高用量 投与群	22 匹中 0 匹	30 mg/kg	～	日	
			～	日	

合計	88 匹中 0 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン		
物質No.	5	試験対象動物	rasH2マウス
試験番号(バイオ)	912	試験開始	2018.9.7
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2020.3.31
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg	<1001>	2019.2.12 ~ 2019.2.13	2 日	1.1%
	1 匹			~	日	
低用量 投与群	25 匹中	3 mg/kg		~	日	
	0 匹			~	日	
中用量 投与群	25 匹中	10 mg/kg		~	日	
	0 匹			~	日	
高用量 投与群	25 匹中	30 mg/kg	<1308>	2019.1.28 ~ 2019.2.5	9 日	4.9%
	1 匹			~	日	

合計	100 匹中 2 匹
----	---------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン		
物質No.	5	試験対象動物	rasH2マウス
試験番号(バイオ)	913	試験開始	2018.9.7
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2020.3.31
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg	2018	2019.1.28 ~ 2019.2.4	8 日	4.4%
	1 匹			~	日	
低用量 投与群	25 匹中	3 mg/kg	<2125>	2019.3.1 ~ 2015.3.4	4 日	2.2%
	1 匹			~	日	
中用量 投与群	25 匹中	10 mg/kg		~	日	
	0 匹			~	日	
高用量 投与群	25 匹中	30 mg/kg	<2301>	2019.3.19 ~ 2019.3.20	2 日	1.1%
	2 匹			<2303>	2019.3.14 ~	

合計	100 匹中 4 匹
----	---------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン		
物質No.	5	試験対象動物	p53KOマウス
試験番号(バイオ)	923	試験開始	2019.3.5
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2020.11.30
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
低用量 投与群	25 匹中	3 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
中用量 投与群	25 匹中	10 mg/kg	<1208>	2019.9.10 ～ 2019.9.14	5 日	2.7%
			<1211>	2019.9.17 ～ 2019.9.18	2 日	1.1%
			<1212>	2019.9.20 ～ 2019.9.29	10 日	5.5%
	4 匹		<1221>	2019.9.27 ～ 2019.10.2	6 日	3.3%
高用量 投与群	25 匹中	30 mg/kg	<1301>	2019.6.18 ～	1 日	0.5%
			<1303>	2019.9.5 ～ 2019.9.7	3 日	1.6%
			<1304>	2019.8.21 ～ 2019.8.27	7 日	3.8%
			<1306>	2019.9.5 ～ 2019.9.16	12 日	6.6%
			<1307>	2019.6.10 ～ 2019.6.11	2 日	1.1%
			<1308>	2019.6.27 ～ 2019.6.28	2 日	1.1%
			<1310>	2019.9.3 ～ 2019.9.11	9 日	4.9%
			<1311>	2019.9.5 ～ 2019.9.7	3 日	1.6%
			<1312>	2019.8.30 ～ 2019.9.4	6 日	3.3%
			<1313>	2019.7.30 ～ 2019.7.31	2 日	1.1%
			<1314>	2019.6.23 ～ 2019.6.24	2 日	1.1%
			<1316>	2019.8.17 ～ 2019.8.19	3 日	1.6%
			<1317>	2019.10.1 ～ 2019.10.3	3 日	1.6%
			<1319>	2019.6.7 ～ 2019.6.8	2 日	1.1%
			<1320>	2019.6.27 ～ 2019.6.28	2 日	1.1%
	<1321>	2019.6.27 ～ 2019.6.28	2 日	1.1%		
	17 匹	<1322>	2019.6.24 ～ 2019.6.25	2 日	1.1%	

合計	100 匹中 21 匹
----	----------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン		
物質No.	5	試験対象動物	p53KOマウス
試験番号(バイオ)	924	試験開始	2019.3.5
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2020.11.30
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
低用量 投与群	25 匹中	3 mg/kg	<2122>	2019.5.28 ～ 2019.6.28	32 日	17.6%
	1 匹			～	日	
中用量 投与群	25 匹中	10 mg/kg	2206	2019.7.23 ～ 2019.8.15	24 日	13.2%
			<2208>	2019.9.9 ～ 2019.9.16	8 日	4.4%
			<2213>	2019.9.3 ～ 2019.9.11	9 日	4.9%
			<2217>	2019.8.20 ～	1 日	0.5%
			<2223>	2019.9.19 ～ 2019.9.20	2 日	1.1%
高用量 投与群	25 匹中	30 mg/kg	<2302>	2019.9.14 ～ 2019.9.16	3 日	1.6%
			<2303>	2019.9.6 ～ 2019.9.13	8 日	4.4%
			<2305>	2019.7.4 ～ 2019.7.9	12 日	6.6%
				2019.9.9 ～ 2019.9.14		
			<2309>	2019.6.22 ～ 2019.6.23	2 日	1.1%
			<2310>	2019.8.23 ～ 2019.8.29	7 日	3.8%
			<2311>	2019.6.24 ～ 2019.6.25	2 日	1.1%
			<2312>	2019.9.9 ～ 2019.9.13	5 日	2.7%
			<2313>	2019.8.23 ～ 2019.9.3	12 日	6.6%
			<2316>	2019.8.17 ～ 2019.8.19	3 日	1.6%
			<2317>	2019.8.4 ～ 2019.8.6	3 日	1.6%
			<2318>	2019.9.6 ～ 2019.9.14	9 日	4.9%
			<2319>	2019.7.11 ～ 2019.7.12	2 日	1.1%
			<2320>	2019.7.4 ～ 2019.7.12	9 日	4.9%
			<2323>	2019.8.31 ～ 2019.9.6	7 日	3.8%
			<2324>	2019.9.3 ～ 2019.9.5	3 日	1.6%
<2325>	2019.7.28 ～ 2019.7.30	3 日	1.6%			
合計	100 匹中 22 匹					

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

動物番号欄がオレンジ色となっている個体は、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	カルシウム=ジホルマート		
物質No.	6	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	899	試験開始	2017.9.8
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2018.2.15
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中 0 匹	0 mg/kg	～	日	
			～	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	250 mg/kg	～	日	
			～	日	
中用量 投与群	22 匹中 0 匹	500 mg/kg	～	日	
			～	日	
高用量 投与群	22 匹中 0 匹	1000 mg/kg	～	日	
			～	日	

合計	88 匹中 0 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	4-アミノフェノール		
物質No.	7	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	910	試験開始	2018.9.10
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2019.2.1
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中 0 匹	0 mg/kg	～	日	
			～	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	50 mg/kg	～	日	
			～	日	
中用量 投与群	22 匹中 0 匹	100 mg/kg	～	日	
			～	日	
高用量 投与群	22 匹中 0 匹	200 mg/kg	～	日	
			～	日	

合計	88 匹中 0 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	o-ニトロアニリン		
物質No.	8	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	911	試験開始	2018.9.10
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2019.2.1
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中 0 匹	0 mg/kg	～	日	
			～	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	100 mg/kg	～	日	
			～	日	
中用量 投与群	22 匹中 0 匹	200 mg/kg	～	日	
			～	日	
高用量 投与群	22 匹中 0 匹	400 mg/kg	～	日	
			～	日	

合計	88 匹中 0 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	5-クロロ-2-ニトロアニリン		
物質No.	9	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	927	試験開始	2019.10.1
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2020.2.14
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合	
溶媒 対照群	22 匹中 1 匹	0 mg/kg	<1009>	2019.11.21 ~ 2019.11.22	2 日	4.8%
				~	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	50 mg/kg		~	日	
				~	日	
中用量 投与群	22 匹中 0 匹	100 mg/kg		~	日	
				~	日	
高用量 投与群	22 匹中 1 匹	200 mg/kg	1319	2019.11.11 ~ 2015.11.15	5 日	11.9%
				~	日	

合計	88 匹中 2 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	酢酸亜鉛(II)		
物質No.	10	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	928	試験開始	2019.10.1
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2020.2.14
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中 0 匹	0 mg/kg	～	日	
			～	日	
低用量 投与群	22 匹中 0 匹	75 mg/kg	～	日	
			～	日	
中用量 投与群	22 匹中 0 匹	150 mg/kg	～	日	
			～	日	
高用量 投与群	22 匹中 0 匹	300 mg/kg	～	日	
			～	日	

合計	88 匹中 0 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	3,5,5-トリメチルヘキサン酸		
物質No.	11	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	940	試験開始	2010.9.10
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2021.2.1
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒対照群	22 匹中	0 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
低用量投与群	22 匹中	150 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
中用量投与群	22 匹中	300 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
高用量投与群	22 匹中	600 mg/kg	<1305>	2020.10.17 ～ 2020.10.18	2 日	4.8%
			<1307>	2020.10.18 ～ 2020.10.20	3 日	7.1%
			1308	2020.10.18 ～ 2020.18.21	4 日	9.5%
			1309	2020.10.15 ～ 2020.15.18	4 日	9.5%
	5 匹		1310	2020.10.16 ～ 2020.10.21	6 日	14.3%

合計	88 匹中 5 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	炭酸ジフェニル		
物質No.	12	試験対象動物	ラット
試験番号(バイオ)	941	試験開始	2020.9.10
試験方法	肝中期発がん性試験	試験終了	2021.2.1
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	42 日

※陽性対照群は除く

投与群	被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	22 匹中	0 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
低用量 投与群	22 匹中	150 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	
中用量 投与群	22 匹中	300 mg/kg	<1210> 2020.11.27 ～	1 日	2.4%
	1 匹		～	日	
高用量 投与群	22 匹中	600 mg/kg	～	日	
	0 匹		～	日	

合計	88 匹中 1 匹
----	--------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。

なお、当該個体は、最終評価時の有効動物数から除外されている。

動物番号欄が黄色となっている個体は、死亡等しておらず試験結果から除外する動物である。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	2-クロロベンゾイルクロリド		
物質No.	13	試験対象動物	rasH2マウス
試験番号(バイオ)	933	試験開始	2020.3.5
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2020.10.29
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中	0 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
低用量 投与群	25 匹中	12.5 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
中用量 投与群	25 匹中	50 mg/kg		～	日	
	0 匹			～	日	
高用量 投与群	25 匹中	200 mg/kg	<1301>	2020.6.14 ～ 2020.6.23	10 日	5.5%
			<1302>	2020.6.19 ～ 2020.6.22	4 日	2.2%
			1313	2020.6.19 ～ 2020.6.23	5 日	2.7%
			<1322>	2020.5.5 ～ 2020.5.12	8 日	4.4%
	5 匹		1325	2020.8.4 ～ 2020.8.11	8 日	4.4%

合計	100 匹中 5 匹
----	---------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。
試験報告書未提出のため、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物は現時点では不明。

【個票】 要注意動物観察記録等情報まとめ

化学物質	2-クロロベンゾイルクロリド		
物質No.	13	試験対象動物	rasH2マウス
試験番号(バイオ)	934	試験開始	2020.3.5
試験方法	中期発がん性試験	試験終了	2020.10.29
投与方法	直接投与	被験物質投与日数	182 日

※陽性対照群は除く

投与群		被験物質濃度	動物番号	観察記録のあった期間	観察記録のあった日数	全投与日数に対する割合
溶媒 対照群	25 匹中 1 匹	0 mg/kg	<2010>	2020.9.24 ~ 2020.10.1	8 日	4.4%
				~	日	
低用量 投与群	25 匹中 2 匹	12.5 mg/kg	<2116> <2123>	2020.9.5 ~ 2020.9.7	3 日	1.6% 1.1%
				2020.8.19 ~ 2020.8.20	2 日	
中用量 投与群	25 匹中 1 匹	50 mg/kg	<2222>	2020.9.13 ~ 2020.9.14	2 日	1.1%
				~	日	
高用量 投与群	25 匹中 3 匹	200 mg/kg	<2307>	2020.5.9 ~ 2020.5.21	21 日	11.5%
				2020.6.15 ~ 2020.6.22		
			2310	2020.5.14 ~ 2020.5.18	6 日	3.3%
				2020.5.21 ~		
<2322>	2020.6.29 ~	1 日	0.5%			

合計	100 匹中 7 匹
----	---------------

↑ 観察対象とされた延べ匹数

※動物番号で< >書きとなっている個体は、投与期間中に死亡等していることを意味する。
試験報告書未提出のため、腫瘍発生がなく試験結果から除外する動物は現時点では不明。

除外対象動物を除外した場合の試験結果

(遺伝子改変動物を用いた中期発がん性試験)

【試験番号 900】 4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール (rasH2 マウス 雄)
(除外対象動物番号 1019)

表 1 4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノールの中期がん原性試験における主な腫瘍発生

投与用量 (mg/kg)		0	50	100	200	Peto 検定	Cochran- Armitage 検定
検査動物数		24	25	25	25		
肺 胃 (前胃)	細気管支-肺胞上皮腺腫	1	4	1	1		
	扁平上皮乳頭腫	0	0	0	2	↑	↑
	扁平上皮癌 [#]	0	0	0	1		
	扁平上皮乳頭腫 + 扁平上皮癌 [#]	0	0	0	3	↑↑	↑↑
鼻腔 脾臓	血管腫	0	1	0	0		
	血管腫	1	0	0	0		
	血管肉腫 [#]	0	1	0	2		
小腸	血管腫+血管肉腫 [#]	1	1	0	2		
	血管肉腫 [#]	0	0	0	1		
膀胱	血管腫	0	1	0	0		
胸膜	血管腫	0	0	0	1		
	血管肉腫 [#]	0	1	0	0		
	血管腫+血管肉腫 [#]	0	1	0	1		
全臓器	血管腫	1	2	0	1		
	血管肉腫 [#]	0	2	0	3		

上段：上皮系腫瘍 下段：非上皮系腫瘍

#：悪性腫瘍

*： $p \leq 0.05$ で有意**： $p \leq 0.01$ で有意

(Fisher 検定)

↑： $p \leq 0.05$ で有意増加↑↑： $p \leq 0.01$ で有意増加

(Peto, Cochran-Armitage 検定)

↓： $p \leq 0.05$ で有意減少↓↓： $p \leq 0.01$ で有意減少

(Cochran-Armitage 検定)

表 2 陽性対照 (N-Nitroso-N-methylurea) の中期がん原性試験における主な腫瘍発生

投与用量 (mg/kg)		媒体対照 0	陽性対照 (MNU) 75
検査動物数		24	15
皮膚	扁平上皮乳頭腫	0	3 *
	肺	細気管支-肺胞上皮腺腫	1
胃 (前胃)	細気管支-肺胞上皮癌 [#]	0	1
	細気管支-肺胞上皮腺腫 + 細気管支-肺胞上皮癌 [#]	1	5 *
	扁平上皮乳頭腫	0	15 **
	扁平上皮癌 [#]	0	4 *
	扁平上皮乳頭腫 + 扁平上皮癌 [#]	0	15 **
胸腺	悪性リンパ腫 [#]	0	8 **

上段：上皮系腫瘍 下段：非上皮系腫瘍

#：悪性腫瘍

*： $p \leq 0.05$ で有意**： $p \leq 0.01$ で有意

(Fisher 検定)

【試験番号 906】 4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール
(p53 ヘテロ欠損マウス 雄)

(除外対象動物番号 1204, 1301, 1310, 1313, 1316, 1325)

表1 4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノールの中期がん原性試験における主な腫瘍発生 (雄)

投与濃度 (mg/kg)		0	50	100	200	Peto 検定	Cochran- Armitage 検定
検査動物数		25	25	24	20		
副腎	皮質腺腫	0	0	0	1		
胸腺	悪性リンパ腫 [#]	0	1	0	0		

上段：上皮系腫瘍 下段：非上皮系腫瘍

表2 陽性対照 (2-Methoxy-5-methylaniline) の中期がん原性試験における主な腫瘍発生

投与濃度 (mg/kg)		媒体対照 0	陽性対照 (<i>p</i> -Cresidine) 300
検査動物数		25	15
膀胱	移行上皮乳頭腫	0	2
	移行上皮癌 [#]	0	3 *
	移行上皮乳頭腫 +移行上皮癌 [#]	0	5 **

上皮系腫瘍

【試験番号 907】 4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノール
(p53 ヘテロ欠損マウス 雌)

(除外対象動物番号 2301, 2303, 2304, 2307, 2310, 2313)

表1 4-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)フェノールの中期がん原性試験における主な腫瘍発生 (雌)

投与濃度 (mg/kg)		0	50	100	200	Peto 検定	Cochran- Armitage 検定
検査動物数		25	25	25	19		
皮下組織	軟骨腫	0	0	0	1		
	肉腫 NOS#	0	1	0	0		
リンパ節	悪性リンパ腫#	1	0	0	0		
骨	骨肉腫#	0	0	0	1		

非上皮系腫瘍

: 悪性腫瘍

* : $p \leq 0.05$ で有意

** : $p \leq 0.01$ で有意

(Fisher 検定)

↑ : $p \leq 0.05$ で有意増加

↑↑ : $p \leq 0.01$ で有意増加

(Peto, Cochran-Armitage 検定)

↓ : $p \leq 0.05$ で有意減少

↓↓ : $p \leq 0.01$ で有意減少

(Cochran-Armitage 検定)

表2 陽性対照 (2-Methoxy-5-methylaniline) の中期がん原性試験における主な腫瘍発生

投与濃度 (mg/kg)		媒体対照 0	陽性対照 (p-Cresidine) 300
検査動物数		25	15
膀胱	扁平上皮乳頭腫	0	2
	移行上皮乳頭腫	0	1
	扁平上皮乳頭腫 +移行上皮乳頭腫	0	3 *
リンパ節	悪性リンパ腫#	1	0

上段 : 上皮系腫瘍

下段 : 非上皮系腫瘍

: 悪性腫瘍

* : $p \leq 0.05$ で有意

** : $p \leq 0.01$ で有意

(Fisher 検定)